

「平成 27 年度粒子線がん治療等に関する施設研究会」第 1 回研究会

平成 27 年度第 1 回施設研究会(見学会)は平成 27 年 10 月 16 日(金)一般財団法人津山慈風会津山中央病院(岡山県津山市)にて開催し、建設会社、設計会社、装置メーカー等から 25 名の参加がありました。

津山中央病院は昭和 29 年、岡山県北部で初めての総合病院として開院、現在は救命救急センター、健康管理センター、医療研修センター、フィットネス&スパ等を有し、26 診療科、病床数 535 床を持つ岡山県北部で最大の総合病院です。岡山県の政策医療のほとんどを担っており、地域がん診療連携拠点病院にも指定されています。同病院では、現在「岡山大学・津山中央病院共同運用がん陽子線治療センター『TOP BEAM』」(以下、TOP BEAM という)が平成 28 年 3 月治療開始予定で設置準備が進められています。

TOP BEAM は岡山大学と津山中央病院が共同で運用します。岡山大学は津山中央病院による寄付講座(陽子線治療学講座)を設置し、その寄付講座の教員を中心に TOP BEAM での陽子線治療の診療、臨床研究、人材育成教育にあたります(寄付講座の構成:准教授 1 名、助教 2 名、内訳:医師 2 名、医学物理士 1 名を予定)。また、岡山大学病院に「陽子線治療外来」を設置し、陽子線治療学講座の教員を中心に外来診療を行います。同外来では、岡山大学病院の関連病院を初めとする中国四国地方の医療施設からの紹介患者を広く受け入れて診察し、陽子線治療の適応判定を行い、適応のある患者は TOP BEAM に紹介して治療および治療患者の経過観察を行います。津山中央病院でも「陽子線治療外来」を開設し、各医療施設からの患者を広く受け入れます。開設前の医師や技術者の事前トレーニングは兵庫県立粒子線治療センターの協力の下に行われます。

当日は、はじめに津山中央病院 企画・管理部 部長 居森英行様から津山中央病院および TOP BEAM について説明がありました。TOP BEAM とは、Tsuyama chuo hospital, Okayama university, Proton, BEAM の頭文字から名付けられています。従来ガントリの 1/3 と小型化することでコストの削減をし、20Gy/分の高線量率とすることで照射時間の短縮が期待されます。また、Broad Beam(標準照射法)、積層原体照射(呼吸同期三次元照射)、スポットスキニングを採用することで治療部位に応じた適切な照射法と精度の向上が得られます。照射は 1 回数十秒で(がんの種類にもよる)平均 25 日間行い、治療費は照射の回数にかかわらず一律 288 万円、年間 250~300 人の患者を想定しています。

説明の後は TOP BEAM へ移動し見学しました。TOP BEAM は約 60 億円が投じて建設された鉄筋コンクリート地上 3 階、地下 1 階延べ約 3900 平方メートルの建物です。すでに機器の搬入を終え、ビーム調整が始まっていたため、残念ながらシンクロトン、回転ガントリ、照射室等の見学が出来ませんでしたが、パワーポイントの発表映像等により説明がありました。

同センターの開設で岡山県の医療産業都市化を推進し、地域の活性化も期待されます。中四国では初の粒子線がん治療施設であり、総合病院としても西日本唯一となる TOP BEAM のご躍進を心よりお祈りいたします。



TOP BEAM 外観



TOP BEAM 前にて記念写真